



学校再開後の子どもたちの変化や学校の現状

日時：令和2年7月3日（金）
 場所：テレビ会議室（遠隔システムを活用）
 参加者：各教育局のスクールカウンセラー

スクールカウンセラーから見た、学校再開後の学校の現状及び子どもたちの変化、さらにスクールカウンセラーの実際の活動について情報交流を行いました。

子どもたちの変化、学校の現状について

【後志】

- 登校している子どもたちは、変化を受け入れている。
- コミュニケーションが苦手な子どもたちは、席が離れていたり、給食の時間を静かに過ごしたりする環境は、通常より過ごしやすくと感じている。
- 行事変更の対応など教員の負担が増加している。

【日高】

- 小学校では、子どもたちの様子や先生たちの話からは、コロナによるストレスは聴いていない。
- 家庭にいてことで家族がギクシャクしてストレスがあったという話を聞いた。

【上川】

- 小学校では、長期間、家庭にいてことによるストレスがあり、親子の衝突があったことを聞いた。
- 子どもが荒れている話を聴いているが、コロナウイルス対応の影響なのか、別のことなのか原因は判然としない。

【日高】

- 高校2年の不登校が増えている。生徒自身も分からないが、登校できない。
- 中学校では、臨時休業中、家庭内でつらい思いをした話を聞いた。

【根室】

- 全体のストレスレベルが上がっていて、通常であれば大丈夫なことも立ち直ることが難しい。
- 保護者、中1、中3からの相談件数が増加した。
- 臨時休業中は、保護者から、家庭内のストレスからくる子どもの問題行動についての相談が増えたが、学校再開後、相談件数は減少した。
- 中3については、部活動における大きな大会への喪失感による悩みの相談があった。
- 中1については、新しい学校への適応とコロナ対策による生活への適応が重なり、悩みが増えているように思われる。
- 皆が常時マスクをしているので、相手の気持ちが分かりにくい。

スクールカウンセラーの工夫、学校への助言などについて

【釧路】

- 熊本県益城町のストレスチェックなどの実践について学校に情報提供した。
- 教員から「例年より子どもたちが幼い」という相談を受け、休業により、今年の6月は例年の4月のようなものであり、時間が必要と助言した。
- 今後、子どもたちの話を受け止めるスキルを身に付けるための研修の必要を感じる。

【空知】

- WHOの子どもの対応向けの資料や臨床心理士会の資料を基に、保護者向け資料を作成し学校で配布し、ホームページに掲載した。
- 高校では不登校生徒が登校した時にどう受け入れるかについて研修を行った。
- 生徒に対し、コロナウイルスの3つの顔を知ろうという資料を基に、心の健康について考える説明をした。

【渡島】

- ネット依存などについて調査を行った結果、ネットの利用時間と体調が悪いことの相関が高いことが分かり、学校に向けて出前授業を考えている。
- LDなどの継続して対応していた子どもには、電話相談やメールにより対応した。
- 教員から、次年度における2年生のリーダーシップの不安の話があったので、今後の行事において、3年生の姿が見えるように取り組むよう助言した。

【オホーツク】

- 教員から子どもたちへの関わり方の相談を受け、電話相談に応じたり、ゲームや自分の感情との対応方法について通信を作り配布した。
- 継続的に支援している子どもについては、学校の先生に対応してもらった。

【根室】

- マスクでSCの顔が見えないため、SCの笑っている時の顔写真を首から提げて校内を歩くなどしている。
- 長期化を見据え、体育、音楽などの先生と自由に表現できる機会について話したり、ちょっとしたことで前向きになれることを記載したリストを、生徒と作成したりしている。

ICTを活用したカウンセリングについて

【十勝】

- 教員のストレスに焦点化するなど大人同士ならば導入が可能かもしれない。
- 研修やセミナーの実施について、ICTの活用により移動時間がなくなったり、やり方を工夫することでたくさんの人と意思疎通できメリットも大きい。

【石狩】

- 部屋の確保など双方にプライバシーを守る環境を設定しにくく、導入は難しい。
- 継続した相談者であれば可能であるが、新規の相談は対面より抵抗があり難しい。

【空知】

- 電話相談でさえ困難性を感じている。
- ICTの環境が整っていないこと、相談者との関係性が構築されていない状況では、導入は難しい。

【まとめ 北海道教育大学札幌校准教授 三上 謙一 氏】

- ストレスと思いがちなことが、子どもによっては過ごしやすい環境であり、また、子どもだけではなく親や先生のストレスもあるなど、色々な側面から考えることが重要です。
- とかくコロナウイルス感染症の影響と考えがちだが、分からないことが多く、色々な視点から考え、環境の大きな変化に適応できるようサポートすることが大切です。
- 電話相談やICTを活用したカウンセリングは、相談者によってはリスクがあると思われます。実施条件を言語化しておくことが必要です。